

「忘れてはいけないこと」

関東管区機動隊（男性）

平成 21 年秋から 2 年半、関東管区機動隊第 4 大隊・大隊長として勤務しました。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、発災 3 日後から被災地に入り行方不明者の捜索を行ったほか、福島第一原発事故に伴うエリア警戒や検問、要人警護、さらには第二機動隊の指揮官としても出動するなど、多岐に亘る被災地活動に従事しました。

被災地への特別派遣は、岩手、宮城、福島の 3 県で合計 10 回・延べ 101 日間に及びましたが、いずれも津波や原発事故による大きな被害を受けた現場での活動であり、私自身生涯忘れられない貴重な経験になりました。

私は岩手県盛岡市の出身です。今回の災害派遣に当たっては、岩手はもちろんのこと被災地のために力になりたいという思いが人一倍強かったのも事実です。

発災直後の被災地は天候も厳しく、車両が足止めされるような大雪や肌を突き刺すような寒風に見舞われることもありました。朝食用にと配られたおにぎりが翌朝には凍るような寒さでも隊員たちは夏用の寝袋で凌いでくれましたし、3 週間という長期間、仮眠場所もない中で二交替勤務を続ける第二機動隊員も誰一人弱音を吐かずに黙々と活動を続けてくれました。こうした隊員の姿からは、なんとかして行方不明者を家族のもとに帰してあげたい、少しでも被災者の力になってあげたいという気持ちがひしと伝わり、私以上に強い使命感を持って活動に取り組んでくれていることに、部隊を指揮する者として心強く何度となく胸が熱くなったことを覚えています。

間もなく震災から 2 年。大切なことは、未だに自分の家で暮らせない被災者の思いや復興に向けて頑張っている姿、そして、私たち自身、被災地で流した汗、目にした現場のひとコマひとコマを決して忘れてはいけないことだと思います。そして、被災地の一日も早い復興と原発事故の終息を心から願っています。